

幻の作品 OPAM初登場!

上村松園《月蝕の宵》
1916年

優れた多くの“美人画”を残した女流日本画家上村松園の幻の作品。月食そのものは描かれておらず、手鏡に月食を写して興じる女性たちが描かれている。右側で団扇（うちわ）片手に月食を見る女性のモデルは「大正三美人」と称された九条武子。



諸友との交遊の思い出を胸に描いた作品

田能村竹田《稲川舟遊図》
【重要文化財】1830年頃

兵庫県伊丹市を訪れた竹田（ちくでん）が友人の頼山陽（らいさんよう）らと交遊した様子を描いた作品。川辺や中洲に浮かぶネコヤナギを主体に鮮やかで深みのある藍色を施した画面は清々しく、晩秋の気配の残る川べりの雰囲気を出している。

田能村竹田って？

現在の竹田市の出身で、南画という絵画の分野で活躍し、全国的にも歴史的にも高く評価されている人物。一生の大半を詩作と墨絵に費やし、《画聖》とも言われている。交友関係も豊かで、頼山陽、浦上玉堂、浦上春琴、青木木米ら、その時代を代表する文化人たちと交わった。本展では、竹田（ちくでん）と交流のあった画人たちの作品も多く展示されている。

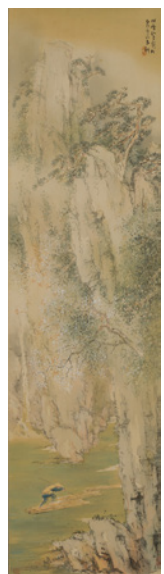
EXHIBITION

片岡辰市コレクションの精華

—竹田と松園、日本美術の雅び—

幻のあの作品にも会える!!
片岡辰市の貴重な
コレクションを公開!

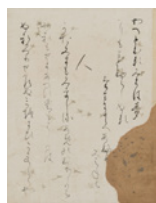
山口県宇部市の実業家片岡辰市氏は、田能村竹田の作品や資料を中心に、周辺の南画家や文人の書画、さらには近代日本画の著名作家らの作品を蒐集して、貴重なコレクションを形成してきました。これらのコレクションが、大分県立美術館に収蔵されたことを機に、田能村竹田、頼山陽、浦上玉堂、竹内栖鳳、橋本関雪ら、コレクションの代表的な秀作を紹介します。特に上村松園の幻の名作といわれる《月蝕の宵》は必見! 独自の審美眼によって集められた名品の数々をお見逃しなく!



橋本関雪
《溪山晚春図》
大正～昭和初期頃



竹内栖鳳
《谿山紅葉》
1912年



伝藤原公任
《伊勢集断簡(石山切)》
平安時代(12世紀)



頼山陽
《湯染山水図》
1827年

片岡辰市コレクションの精華 —竹田と松園、日本美術の雅び—

7/29(金)～9/11(日)

休 8/8(月)、29(月)は展示替えのため休展(コレクション展は開展)

所 大分県立美術館 3F 展示室B

料 一般600(400)円、大学生・高校生400(200)円、中学生以下無料
※()内は団体料金 ※本展観覧券の半券で、本展の会期中に限りコレクション展も観覧可。

問 大分県立美術館 Tel:097-533-4500

関連イベント

■ギャラリー・トーク 参加無料(要展覧会観覧券) 申込不要

日時…8/12(金)18:30～19:30、8/20(土)、9/3(土)13:30～14:30
所…大分県立美術館 3F 展示室B 案内…当館 学芸員

■講演会「片岡辰市コレクションを語る」 参加無料 申込不要

日時…8/6(土)13:30～15:00 定員…80名
所…大分県立美術館 2F 研修室 講師…古賀道夫(当館 学芸企画課 副課長)